

海外交流支援事業報告書

訪問先(国・都市名)	台湾<高雄市、台北市、新北市>
研修旅行期間	令和元年12月15日～令和元年12月21日
交流学校名等	台湾東京窯業股份有限公司、高雄高級工業職業学校
参加生徒数	4名
引率者数	2名

(1) 姉妹校等との交流で実施した内容

① 異文化理解や地域の文化・伝統への理解を深めるため、台湾の高校生や就業体験先の方等と交流会を行った。

交流先：台湾中正高級工業職業学校

- i 歓迎セレモニー・・・金工科生徒によるパフォーマンス。
- ii 両校代表職員挨拶・・・高瑞賢 氏（中正校長）、伊藤岳明（多工教頭）より歓迎と感謝の挨拶。
- iii 両校の紹介・・・周信宇（中正）、長江響（多工）による英語での学校紹介。
- iv 学校見学・・・電機科（PLC実習）、金工科（彫金実習）、ロボット部（実演）を見学。
- v 中正高生徒演舞・・・カンフーの実演。
- vi 両校学生交流会・・・4班に分かれての交流会。本校生徒1名に対して、中正高3～5名。
- vii 校外交流活動・・・交流会終了後、2班に分かれて高雄市内を中正高の学生が案内しながら交流を深めるツアーを実施。

② 国際的分野で活躍できるグローバルエンジニアとしての姿勢を学ぶため、台湾東京窯業股份有限公司（株）TYK 台湾工場にて就業体験を行った。

体験先：台湾東京窯業股份有限公司

第1日目（12月17日）

- i 代表挨拶・・・台湾東京窯業股份有限公司 工場長 井上真計 氏、総経理 特別助理 陳正暉 氏、代理総経理 副田 和美 氏
- ii 朝礼参加・・・準備体操、朝礼、自己紹介。
- iii 工場見学・・・工場長井上氏による会社概要の説明の後、工場を見学。施設と作業内容の説明。
- iv 職場体験・・・2班に別れ、型枠にコンクリートを流し込む作業、製品の修正作業を現地従業員の指導のもと、就業時間が終了するまで行った。

第2日目（12月18日）

- i 朝礼参加・・・本校生徒が従業員の前に立ち、準備体操を行う。
- ii 職場体験・・・前日と同様2班に分かれ、午前中は製品の修正作業と、完成品の塗装と梱包作業を行った。
午後から、品質検査試験の作業を工場長の井上氏から指導していただく。
- iii インターンシップのまとめ・・・2日間のまとめと反省について話し合う。

③国際マナーや見聞を広め情操を養うため、台北近郊の歴史的・文化的な施設の見学等を行った。また、海外で行動できる自信を持たせるため、移動方法や交流内容等生徒自身が計画をたて主体的に行動した。

研修場所

・台湾糖業博物館 ・六合夜市 ・中正紀念堂 ・九份 ・士林夜市 ・国立故宮博物院 ・龍山寺 ・中華民國總統府 ・台北 101 ・迪化街

(2) 事業実施後の生徒の変容（具体的に）

生徒全員が海外に行くのが初めてで、不安が多い状態で日本を出発した。台湾の高校生との交流や企業でのインターンシップにおいて、同年代の生徒の取り組む姿勢、英語を話せることに対して大きな刺激を受けており、今ある生活が自分の努力ではなく、人によって与えられたものなのだと理解していた。中には日本がこのままでは世界に取り残されてしまうと言う危機感を覚えたようであった。インターンシップ後には、ボディランゲージや、伝えようとする、理解しようとする思いが大切だとも言っており、コミュニケーションの課題を乗り越えることができたことから、不安から自信へと変わった姿が見られた。また、研修後の感想には就職した後、海外で働いてみたいという意見が聞かれたことから、今回の研修が彼らの人生のなかで大きな枠割りを果たしたといえる。別紙に事前研修前、出発前、帰国後のアンケート結果を示す。多くの項目で「不安」であったことが「不安に感じない」になっている。また、「5. 帰国後に自信がついてこと」の項目では・時間の管理・積極性・言葉に対する意識・コミュニケーション・海外へ行くことの抵抗がなくなった・視野が広がったと答えており生徒の変容がわかる。

(3) 効果の検証（交流の効果をどのように図ったか）

I 事前研修を行い、その都度の報告を行った。

- ・7月初旬研修に参加する生徒の募集を2年生に対して行い、定員4名のところ5名の応募があった。それに対して選考会を設け、参加希望者に海外インターンシップ参加への思いについて作文を提出させ、管理職、進路指導主事、各学科の主任で、面接を行った結果から4名の生徒を選出した。7月中旬から研修のガイダンスを開始し、夏期休業中は台湾の文化や言語についてとインターンシップ先の企業についての調査を各自行い、夏期休業明けにまとめとしてレポート形式の報告書を提出させた。
- ・9月初旬に昨年度の研修参加生徒からの体験談や参加生徒の役割決めを実施し、中国語について学ぶ機会を設け、社会科教員の指導により台湾の文化、歴史、地理等について学んだ。
- ・10月初旬にインターンシップ先の企業についてまとめたものをプレゼンテーション方式で発表した。
- ・11月は台湾での研修中の行程、交通機関利用方法、研修場所、移動の仕方について計画し、随時引率者へ報告させ、日程の内容について無理な計画がないように指導した。また、旅行社から出入国と傷害保険について説明があり、後日参加生徒の保護者に対しても説明会を行った。
- ・12月上旬から中旬にかけて、研修計画の内容の再確認と、学校交流で行う学校紹介の英語スピーチの作成と内容確認、交流会でのグループ活動に関する相手校についての調査や、参加生徒の氏名の確認等を行った。

II 事前アンケート、事後アンケートによる比較を行い生徒の変容を見た。
(別紙1参照)

III 台湾研修中は、研修計画の項目ごとに担当生徒が決まっており、その生徒がリーダーシップを取って行動した。また、目的や内容、反省と感想について研修日誌に記入して研修を振り返った。引率者がその内容を確認しその都度評価(コメント等)をした。その後、研修を終えての報告書を作成し自己評価をするとともに、引率者に提出させ評価した。

研修の様子



①金工科の歓迎セレモニー



②学校交流会での記念撮影



③学校見学(電機科)



④学校見学(金工科)



⑤本校代表生徒挨拶



⑥カンフー指導



⑦グループによる交流会



⑧TYK 台湾の方と記念撮影



⑨TYK 台湾 朝礼での自己紹介



⑩現地従業員による指導（修正作業）



⑪現地従業員による指導（製品梱包）



⑫品質検査試験の説明



⑬本校生徒による準備体操指導



⑭国立故宫博物院研修



⑮食事の風景（小林鶏肉飯店）

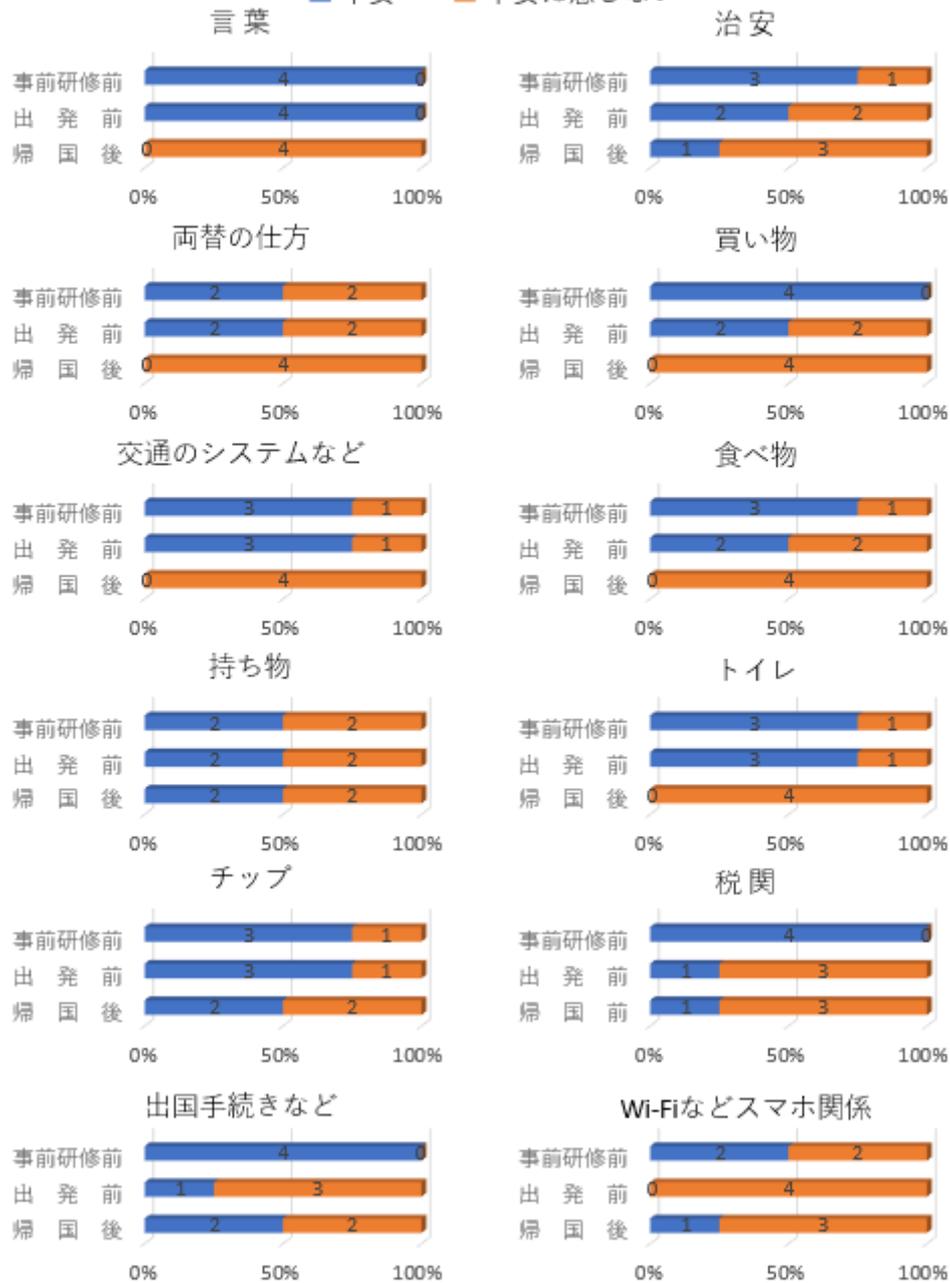


⑯通貨の両替風景

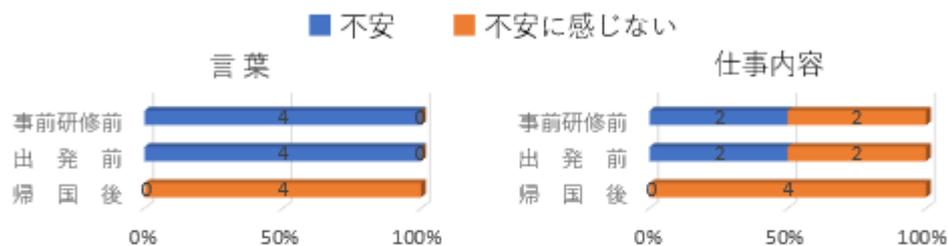
海外インターンシップアンケート集計結果

1. 海外に行くにあたり、少しでも不安に思っていることについて

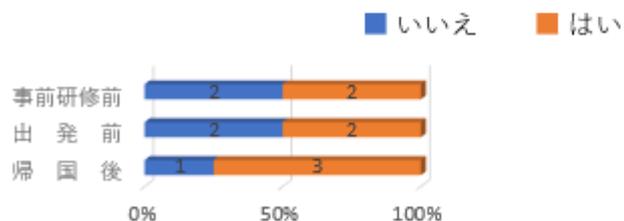
■ 不安 ■ 不安に感じない



2. インターンシップを実施するにあたり、少しでも不安に思っていること



3. 実際に、海外で働いてみたいと思っているか



4. 出発前に不安に感じること

- ・コミュニケーションの取り方
- ・気候
- ・すべてが不安でわからない

5. 帰国後に自信がついてこと

- ・時間の管理
- ・積極性
- ・言葉に対する意識
- ・コミュニケーション
- ・海外へ行くことの抵抗がなくなった
- ・視野が広がった